

## 「渋沢 栄一翁から学んだこと」

三年 澁澤



僕は、渋沢栄一翁の生誕の地と同じ、血洗島に住んでいます。また、小さい頃から、渋沢栄一翁の生家である「中の家」に何度も足を運び、その偉大さを感じていました。

なぜならば、栄一翁は、第一国立銀行をはじめ500以上もの企業の創立や運営に携わってきたからです。また、その企業は、現在も沢山残っています。明治の時代に自分のためではなく国や地域のために企業を創立していて、とても人のことを思いやる心が、大きいのだなと思っていました。今の社会があるのは、郷土の偉人である栄一翁のお陰なのだと改めて思いました。

さらに、他国との交流にも力を入れていました。特に、印象に残っているのは、アメリカの「青い目の人形」です。

僕が、小学生の頃から八基小学校にその写真があり、何度も見ていました。低学年の頃は、「何の写真だろう？」と思っていましたが、学年を重ねていくうちに少しずつ分かるようになりました。これは、栄一翁が、「子どもたちから、交流を深めるためにも、お互いの国の人形を交換したらどうだろうか。」という考えを持ち、アメリカと人形を交換しました。また、交換するだけではなく、自らもアメリカに渡り、大統領と話をしたり記者会見をするなど、日本とアメリカの親善に全力を尽くしました。

僕は、よく人形を交換しようというアイデアが浮かんだなと思いました。栄一翁は、普通では思いつかないような素晴らしい発想の持ち主だったので。また、外国と交流をするためには、英語ができなければならないと思うので、栄一翁が勉学に励んでいたことが思い浮かびます。僕も目の前に受検(験)を控えているので、そういったことを見習い、勉強を頑張っていこうと思います。他にも栄一翁がたくさんのことを行い、この日本や深谷を豊かにしてきたということは、みなさんもよくご存じだと思います。

僕は、これからも自分の地域に住んでいた渋沢栄一翁のことを誇りに思い、まごころと思いやりの心を大切にして生活していきたいです。